

解答のヒント

こんにちは。暑い夏が終わり、風や虫の声に秋を感じる時期となりました。今回も新聞記事を元に小論文の書き方について考えていきたいと思います。どうぞよろしくお願ひします。

■記事を読む

小論文を書くにあたって、まずは「何について書くのか」を確認する必要があります。今回は「次の文章を読んで」「災害時における行政の SNS 利用について」「あなたの考えを」という指定がありますから、それを念頭において記事を読んでいきましょう。

記事では、西日本豪雨や連日の猛暑日の際に、消防局の公式アカウントが SNS に投稿した内容について触れられています。これらの投稿は市民に安心感を与えたり、市民の議論に発展したりといった影響をもたらした例であったとされています。

■記事の内容を批判する、深める、広げる

課題文が与えられてそれに対する意見を述べる場合、私たちがとる立場は大きくわけて課題文の内容に「賛成（肯定的）」か「反対（否定的）」かのどちらかとなることが多いでしょう。たとえば、「行政が災害時に SNS を使用するのはいへんすばらしいことだ」「行政はもっと災害時に SNS を活用すべきだ」という意見を表明するならば賛成、「行政が災害時に SNS を使用するのはリスクが高い」「行政は災害時の SNS 使用に慎重になるべきだ」という意見を主張するならば反対の立場と言えます。

しかし、今日 SNS が広く普及している状況を考えれば、行政がそれを無視してもかまわないという意見に説得力を持たせることは難しいでしょう。つまり、今回の記事については、「全面的に反対」という立場はとりにくいということになります。

このように、課題文の内容に対して全面的に反対という立場を取れない場合は、「～～という点は良いが……という点は改善する必要がある」という「部分的反対」の立場をとるか、「賛成」の立場をとるかのどちらかになります。今回は「賛成」の立場から書くにはどうすればよいのかに注目して解答を作成してみましょう。

賛成の立場から解答を書く場合、受験生の多くは課題文の内容を繰り返しただけの解答を作ってしまうがちです。そのような解答では、課題文を読んだことは示すことができても、「あなたの考え」を述べたことにはならないので、評価は低くなってしまいます。そこで、賛成の立場から小論文を書く際に必要とされるのが、課題文の内容を「深める」または「広げる」という作業です。

「深める」とは、課題文で述べられている内容を、その背景を考えたり、他の社会と比較してみたり、定義づけを行ったりして、より詳しく考えていくことです。

「広げる」とは、課題文で述べられている内容を他の分野、例えば国際化や技術の進歩な

どと関連付けて、視野を広げて考えることを指します。

今回は問題の条件が具体的なものとなっていることもあり、他分野と組み合わせて考えるのはやや難しいかもしれません。そこで解答例は、災害時の情報発信に求められるものを定義し、そのうえで行政の SNS はどういった役割を果たすべきか、という視点で記事の内容を深めてみました。

■論を発展させる

今回の記事の内容を「深める」にあたっては、まずは行政に限らず、災害時における人々の SNS 使用について、普段自分がどのような印象をもっているかを整理してみるといいでしょう。たとえば、

- ・タイムリーな情報が得られる。
- ・困難な状況にある人が直接助けを求められる。
- ・間違った情報が拡散されることがある。
- ・SNS を利用している人といない人で得られる情報に差がうまれる。

などといった具合です。上 2 つは災害時に SNS を使用するメリット、下 2 つはデメリットとなります。こういった印象をもとに、災害時の情報発信に求められるものを考えていくと、「早さ」「正確さ」「情報格差の是正」などが挙げられます。他にも様々な事柄が考えられるかと思しますのでまずは思いつくかぎり書き出すところから始めるといいでしょう。

災害時の情報発信についてまとめたら、そのなかで行政の SNS は特にどのような役割を果たせるか、を考えていくこととなります。

今回は、

- ・災害時の情報には「正確さ」と「早さ」が必要。
- ・SNS は「早さ」の面で優れているが「正確さ」の面では不安がある。
↓それに対して
- ・行政の発信する情報は信頼度が高く、正確なものだとされる。
↓だから
- ・行政は SNS を用いて正確な情報を発信するとともに、SNS 上の間違った情報が「間違いである」と指摘する役割も果たすべきではないか。

というように論をまとめました。

解答例では、実際の災害時に、拡散されている情報の間違いを行政の SNS が指摘した例を挙げるなどして、主張を整理しています。

■論をまとめる

主張を整理した後は、情報を受け取る私たちもただ与えられるものを享受するのではなく、能動的に考え、判断する必要があるとし、そのためにも行政の SNS は判断の基準となるような情報を提供すべきだというように、改めて主張の妥当性を示しました。まとめの段落ではあまり新しい内容には触れず、主張を補強するための具体例や方策を挙げるとよいでしょう。

■さいごに

SNS は今や人々にとって身近なツールとなりました。みなさんも何らかの SNS を利用している人が多いと思います。今回は行政が利用するなら、という限られた視点から考える問題でしたが、みなさんひとりひとりが今後 SNS をはじめとするインターネット社会の中でどのように生きていくのかを意識することは大変意義のあることだと思います。今回の小論文講座が、みなさんの役にたてば幸いです。

(敦賀薫)